

TOPICS 介護現場における「生産性向上」

生産性向上ってなに？ 現場の「何を」・「何のために」良くするのか考えることから始めてみませんか？

但馬長寿の郷 地域ケア課

「生産性向上」という取組みを聞いたことがありますか？

みなさんは、「介護分野における生産性向上」という取組みを聞いたことがありますか？

「生産性」とは、モノやサービスなどの価値をどれだけ少ない労力や資源の投入により生み出すかを表す指標と言われています。そのため、「介護」と「生産性」のつながりをイメージしにくい方も多いと思います。実際、現場のみなさんにこの取組みについて聞くと、「知らない」と答える方が多く、まだまだ浸透していない印象を受けます。

厚労省はH30年からこの取組みについて協議を始め、「生産性向上に資するガイドライン」を作成しました。その中で、介護現場における生産性向上を「介護の質を高めること」と定義しています。また、R6年の介護報酬改定では「生産性向上推進体制加算」も新設されました。

人手不足社会を見据え、利用者へのケアの質を担保する

この取組みが推進される背景は、介護分野の人手不足です。

国の推計では、今後、高齢者の人口増加に加え、特に生産年齢人口の減少が続くことが予想されています。但馬においては、2020年と比較し、2045年では75歳以上の人口は約3,000人増加することに対し、生産年齢人口は約27,000人も減少すると言われています。

介護需要は高まる一方、介護人材の確保が難しい世の中がやってくるのです。そのような状況の中でも、介護の質を確保し、さらには向上させていくことが大きな課題です。

このような課題を見据え、進められる介護分野における生産性向上とは、「今よりも人手が不足する中においても、一人でも多くの利用者に質の高いケアを届けること」と捉えることができるのでしょうか。

国の示す、「生産性向上」の取組み例とは？

厚労省は、介護現場における生産性向上の取組みを「日頃の業務改善を行うこと」と提唱し、具体的に7つの取組みを提示しています。

例えば、職員の一日の業務をすべて洗い出し、ムリやムダ、ムラがないか評価します。それにより、業務の必要性や分担などの見直しができ、直接業務に関わる時間を増やしたり、残業を減らしたりすることができます。また、普段使う本棚や机の上の整理整頓など、小さなことでも業務の改善につながり

ます。業務改善の取組みを行うことで、ケアに直接関わらない業務の負担を軽減できたり、直接的なケアの安全性を高めることができると示しています。

さらに、業務改善で得られた時間や人的余力により、人材の育成に力を入れられたり、行事に力を入れられたりと新たなことに挑戦も可能です。この取組みにより、職員が介護業務に集中でき、いきいきと働くことのできる環境づくりにつながります。職員の業務負担軽減を図ることで、サービスの質向上に繋げる取組みなのです。



厚生労働省 老健局高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室
2023. 生産性向上ビギナーセミナー資料より

取組むなら、今。大変だけど、今。

但馬内の事業所を訪問し、現場職員や施設管理部門の担当の方からよく伺うのが、現場職員から挙げられた業務改善に関する提案に対し「忙しくて難しい」とか「人がいないからできない」といった声です。確かに新しいことに取り組むには時間や労力が必要で、本当に大変なことだと思います。しかし、今は何とかやり過ごすことができたことでも、5年後、10年後と経過した時、同じようにやっていけるでしょうか。

この先もっと厳しい人手不足の時代がやってきます。その時まで先延ばしにすると、もっと大変になってしまうのではないのでしょうか。

職員の「愚痴」は、業務改善の「ヒント」

業務の「ちょっと困った」や「言うほどではないかも知れないけれど」といった小さな困りごとから解決することで、それが大きな業務の改善につながることもあります。

まずは、みなさんの現場でどんな課題があるか、全ての職員から抽出することが始まりだと思います。実際、業務改善が進む施設も、1つの課題に気づいたところから始まり、職員みんなで仕事に対する課題を出し合うことにより取組みが上手く進んでいました。

改善活動の手順とポイント

(ガイドライン(居/30)P.10)

手順	進めるコツ
手順 1 改善活動の準備をしよう	<input type="checkbox"/> 改善活動するプロジェクトチームを立ち上げ、プロジェクトリーダーを決める <input type="checkbox"/> 経営層から事業所全体への取組開始を宣言する
手順 2 Plan 現場の課題を見える化しよう	<input type="checkbox"/> 「気づきシート」から「因果関係図」を作り課題を見える化、構造化する <input type="checkbox"/> 「因果関係図」から取り組む課題を絞り込む <input type="checkbox"/> 業務時間調査で業務を定量的に把握する
手順 3 Plan 実行計画を立てよう	<input type="checkbox"/> 考えられる取組を出し合い課題解決までの道筋を描く <input type="checkbox"/> 成果を測定する指標（成果指標）・観察のポイントを定める
手順 4 Do 改善活動に取り組もう	<input type="checkbox"/> まずはとにかく取り組み、試行錯誤を繰り返す <input type="checkbox"/> 小さな成功事例を作り出す
手順 5 Check 改善活動を振り返ろう	<input type="checkbox"/> あらかじめ定めた成果指標や観察のポイントを確認する <input type="checkbox"/> 上手くいった点、上手くいかなかった点を整理する
手順 6 Action 実行計画を練り直そう	<input type="checkbox"/> 上手くいった点、上手くいかなかった点について分析を加える <input type="checkbox"/> 他の取組も含め、実行計画に修正を加える <input type="checkbox"/> 改善活動を継続させる

11

厚生労働省老健局作成「介護現場における生産性向上の取組を支援・促進する手引き」より

気を付けてほしい。「モノの導入」は手段です。

一方で、注意したいのが「生産性向上」の取組み＝「介護ロボットやICTなどのモノの導入」と理解することです。「補助金があるから」と見守りセンサーを導入したものの、あまり使わずに倉庫で眠っ

ているといった声を聞いたこともあります。この取組みを成功させる秘訣は、物の導入や活動から入るのではなく、課題を把握した上で「何が必要か」考えてから行うことです。手間や人員不足と言って後回しにせず、まずやってみることが大切ではないでしょうか。イメージが付きにくい場合、厚生労働省も生産性向上の好事例集を示しているので調べてみてください。

生産性向上はだれのための取組みか？

生産性向上の取組みは、介護施設で働くすべての職員が「したかったこと」を「できるようにする」取組みだと考えています。人を相手にする介護という仕事に対し、生産性という言葉を使うことに違和感を持つ方もいるかもしれません。しかし、生産性向上の取組みで働きやすい職場を作ること、今働いている職員の負担を減らすだけではなく、介護という仕事の魅力を向上させることにも繋がり、人材確保の一助となるのではと考えます。

これからやってくる厳しい時代を笑って迎えられるよう、「介護現場の生産性向上」に取り組まれる施設が1つでも多く生まれることを願っています。

厚労省「介護分野における生産性向上ポータルサイト」



HP QRコード



<https://www.mhlw.go.jp/kaigoseisansei/index.html>